

廃棄物処理装置のデモセンター竣工

破砕機やAI選別機等をテスト可能

リョーシン(富山市、高野晃社長、☎076・465・6050)

は、本社敷地内に廃棄物処理装置のデモセンター2棟を竣工し、テストの受け付けを本格的に始めた。世界最先端の機器の中でも価格や処理能力、堅牢性などが優れ、採算性の高いものをラインアップ。主に、プラント1は破砕・選別装置、プラント2はAI選別機

・光学式選別機を設置している。各機器をコンベヤーで連結しているため、投入から破砕・選別処理に至るまで実際のプラントに近い試運転ができる。

プラント1は、廃プラや建設系混合廃棄物など多様な素材を対象とした破砕・選別ラインのテストに対応。各種機器は、廃棄物処理事業者が普段処理している材料に合わせ、破

装置は、VSSI社製・2軸せん断式破砕機▽フォレック社製・粗破砕機▽ビンダー社製・振動選別機(ピビテックスクリーン)▽Nichot社製・風力選別機(SDX1000)▽リンドナー社製・1軸破砕機(コメット2200)▽TAI-PO社製・高精度金属

選別機(TAI-PO600セパレーター)▽リンドナー社製・移動式破砕機(ウラコー)を採用している。プラント2は、AI選別や光学式選別機を用いた自動選別のテストに対応する。プラントをコンベヤーでループ上に組んでおり、少量の材料でも連続稼働が可能。試運転を連続しながら各種調整を行うことで、材料に合わせた最適な調整を導き出せるという。リョーシン製のAI選別ロボットBenkei・Musashi、トムラ

社製・光学式選別機、ビンダー社製・光学式選別機(クラリテイ)をテストできる。同社では、従来もデモセンターを構えていた。しかし、広さの問題から処理能力を抑えたコンパクトな装置を採用し、コンベヤーも通

常より傾斜を付けて設置していたことなどから、ユーザーが求める

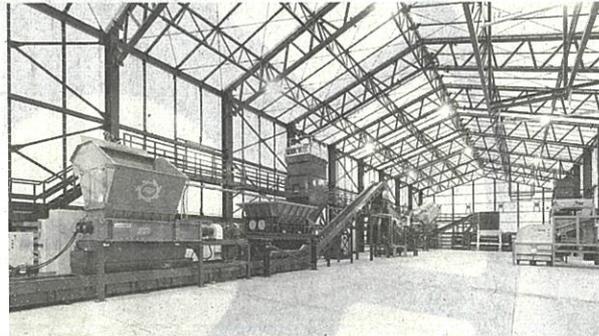
処理能力をそのままテストできない課題があったという。そこで、新たなデモセンターの整備に乗り出し、今年1月に竣工。2棟合わせて延べ2000平方メートルの広さを確保しているため、大型クラスの装置も可能で、コンベヤーをフルに展開で

きるほど、スペース的なゆとりができた。同社の高野社長は、「われわれが考える採算性の高いプラントをデモセンターに組んだ。ぜひ材料を持ち込んでテストを行い、処理能力を確かめながら、事業の採算性を検討してほしい」と話す。

新デモセンターの外観(プラント2(右)、プラント1(左))



新デモセンターの外観(プラント2(右)、プラント1(左))



同センターの内部

同社では、従来もデモセンターを構えていた。しかし、広さの問題から処理能力を抑えたコンパクトな装置を採用し、コンベヤーも通

常より傾斜を付けて設置していたことなどから、ユーザーが求める

処理能力をそのままテストできない課題があったという。そこで、新たなデモセンターの整備に乗り出し、今年1月に竣工。2棟合わせて延べ2000平方メートルの広さを確保しているため、大型クラスの装置も可能で、コンベヤーをフルに展開で

きるほど、スペース的なゆとりができた。同社の高野社長は、「われわれが考える採算性の高いプラントをデモセンターに組んだ。ぜひ材料を持ち込んでテストを行い、処理能力を確かめながら、事業の採算性を検討してほしい」と話す。